

授業科目名	【G】 刑法概論	区分	必修	開講年次	【G】1	単位数	【G】2	
科目区分	専門科目:【G】教科及び教科の指導法に関する科目(中社・一・公民・一)							
授業形態	対面授業							
担当形態	単独	【G】 教員の免許状取得のための(中社選択・一・公民選択・一)科目						
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項:「法律学、政治学」(中一種免社会)、 「法律学(国際法を含む。)政治学(国際政治を含む。)」(高一種免公民)							
サブタイトル	刑事法とは何か?			担当者	今井 康介 青木 陽介			
授業概要	【概要】	「刑法(総論)I・II」「刑法(各論)I・II」「刑事訴訟法I・II」の各講義では、各条文に関する個別具体的な解釈論が中心となる。本講義では、それらの前提となる刑事法の基本的な知識・情報を提供する。なお、①予習・復習のやり方、②小テスト等の準備の仕方、③ノートの取り方等についての「授業への取り組み方」については、第1回目の講義において、詳しく説明するので、必ず出席すること。						
	【到達目標】	刑事法の基本的な知識の習得とともに、自ら学び、考える姿勢を身につけることを目標とする。						
履修条件	特になし。ただし、第1回目の講義には必ず出席すること。							
アクティブラーニングの方法	【-】	事前学習型	【-】	反転授業	【-】	調査学習	【-】	フィールドワーク
	【-】	双方向アンケート	【-】	グループワーク	【-】	対話・議論型授業	【-】	ロールプレイ
	【-】	プレゼンテーション	【-】	模擬授業	【-】	PBL	【-】	その他
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①	◎ (よく当てはまる)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)②	- (当てはまらない)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)③	- (当てはまらない)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)④	- (当てはまらない)						
他科目との関連性	【刑事法関係の開講科目】刑法概論を受講のうえ、刑法(総論)I・II、刑法(各論)I・II、刑事訴訟法I・IIを受講されたい。ただし、その順序は問わない。ほかに、情報法I、特殊講義(特別刑法I・II)、特殊講義(刑事政策)と講義内容において密接に関係する。							
教科書	井田良『基礎から学ぶ刑事法[第6版補訂版]』(2022年、有斐閣)、松原芳博『刑法概説[第2版]』(2022年、成文堂)							
参考書	三井誠ほか『入門刑事法』有斐閣、大谷實『刑事法入門』有斐閣、三井誠ほか『刑法学のあゆみ』有斐閣、刑法理論研究会『現代刑法学原論[総論]』三省堂、井田良『入門刑法学総論』『入門刑法学各論』有斐閣、市川正人ほか『現代の裁判』有斐閣、田宮裕『日本の裁判』弘文堂、大谷實『刑事政策講義』弘文堂、川出敏裕ほか『刑事政策』成文堂、犯罪白書、警察白書など。ただし、それぞれ最新の版。※ぜひ、図書館の「教科書・参考書」コーナーを活用してください。							
評価方法	小テスト[複数回実施]の合計点で評価する。なお、併せて課題レポートの提出を求めることもある。 (※詳細は担当者により異なり得るので、初回授業で必ず確認すること。)							
フィードバック方法	①小テスト実施後に、全体的な状況についての「講評」を公開する。 ②講義内容に関する質問等は随時、受け付ける。必要に応じて、講義でもそれに触れる。							
評価基準	原則として、全15回の講義において、少なくとも10回以上の「出席」を単位認定の前提とする。上記授業内容について、これをよく理解し、適切に表現できた者には、その程度に応じて「S」または「A」を与える。授業内容についての理解度や表現内容に十分ではない点がある者は、その程度に応じて「B」または「C」とし、授業内容についての理解自体が最低限度の水準に達していない者は、その程度に応じて「D」または「E」とする。小テストを全く受けていないなど評価不能な場合には「F」とする。							

授業科目名	【G】 刑法概論	区分	開講年次	【G】1	単位数	【G】2
		必修				
授業回数	授業内容					
1	ガイダンス。講義全体を通じて、何を学ぶのかについて説明する。民事法と刑事法、あるいは、民事手続と刑事手続の異同について 予習： 教科書全体の通読。 復習： 講義内容の確認。教科書の該当ページ、配布資料を再読する。					
2	犯罪とその原因、「刑罰とは何か?、刑法とは何か?」 予習： 教科書の該当ページ、配布資料を読む。 復習： 講義内容の確認。教科書の該当ページ、配布資料を再読する。					
3	刑法とその解釈、罪刑法定主義 予習： 教科書の該当ページ、配布資料を読む。 復習： 講義内容の確認。教科書の該当ページ、配布資料を再読する。					
4	犯罪論の基礎 ① 犯罪論体系、構成要件論、構成要件該当性について 予習： 教科書の該当ページ、配布資料を読む。 復習： 講義内容の確認。教科書の該当ページ、配布資料を再読する。					
5	犯罪論の基礎 ② 違法性・責任について 予習： 教科書の該当ページ、配布資料を読む。 復習： 講義内容の確認。教科書の該当ページ、配布資料を再読する。					
6	犯罪論の基礎 ③ 故意・過失について 予習： 教科書の該当ページ、配布資料を読む。 復習： 講義内容の確認。教科書の該当ページ、配布資料を再読する。					
7	犯罪論の基礎 ④ 未遂犯について 予習： 教科書の該当ページ、配布資料を読む。 復習： 講義内容の確認。教科書の該当ページ、配布資料を再読する。					
8	犯罪論の基礎 ⑤ 共犯について 予習： 教科書の該当ページ、配布資料を読む。 復習： 講義内容の確認。教科書の該当ページ、配布資料を再読する。					
9	刑法各論のあらまし ① 個人的法益(財産犯を除く)について 予習： 教科書の該当ページ、配布資料を読む。 復習： 講義内容の確認。教科書の該当ページ、配布資料を再読する。					
10	刑法各論のあらまし ② 個人的法益(財産犯)について 予習： 教科書の該当ページ、配布資料を読む。 復習： 講義内容の確認。教科書の該当ページ、配布資料を再読する。					
11	刑法各論のあらまし ③ 社会的法益・国家的法益について 予習： 教科書の該当ページ、配布資料を読む。 復習： 講義内容の確認。教科書の該当ページ、配布資料を再読する。					
12	刑事手続 ① 概説、日本の刑事手続の特色 予習： 教科書の該当ページ、配布資料を読む。 復習： 講義内容の確認。教科書の該当ページ、配布資料を再読する。					
13	刑事手続 ② 裁判員制度 予習： 教科書の該当ページ、配布資料を読む。 復習： 講義内容の確認。教科書の該当ページ、配布資料を再読する。					
14	犯罪者の処遇、少年犯罪と少年法 予習： 教科書の該当ページ、配布資料を読む。 復習： 講義内容の確認。教科書の該当ページ、配布資料を再読する。					
15	最後の小テスト・問題解説、全体のまとめ 予習： 教科書全体を改めて再読する。授業ノートの確認。 復習： 教科書全体を改めて再読する。授業ノートの確認。					
その他	教科書、配布資料、最新の六法を必ず持参すること。【受講上の注意】正当な理由のない、遅刻および途中退室後の再入室は認めない。私語、携帯電話の使用は禁止する。その他授業を真摯に受けようとする意思の認められない学生については、退室を命じる場合がある。 なお、授業ごとの予習・復習時間は、各90分程度を目安としてください。					